生物世界ノ出版ニツイテ
不要トナツタ
高等時代ノ諸原稿

（京都高等蠶絲學校試驗用紙）

一、同位社会(Synusia)ノ構造ヲ説明セヨ。

生物ハ各々社会ヲ形成シテ居ル。而シテ其ノ生物全体ハ一ツノ大ナル社会デアル。而シテ此ノ社会ヲ成ス[illegible]ハ複雑ナ[illegible]ノ事ハ[illegible]ヨリ[illegible] アミーバノ如キ単細胞ノモノヨリ高等ノ哺乳類、人間ニ至ルマデ非常ニ多クノ種類ノ生物ガ存在シテ居ル。而シテ此ノ生物ヲ見渡スト単細胞ノ簡単ナ生物ヨリ多細胞ノ[illegible]ニ至ルマデ進化ヲ時間的見地ヨリ見レバ同ジ進化ノ[illegible]ニ在ルモノデアルガ故ニ同 stage ニ在ルト考ヘルガ故ニ全生物ヲ全体ガ同位ノ社会ニ在ルト云フ。以下之ヲ少シク説明セン。

一体生物ハ如何ニシテ生ジタカ。之ニツイテ[illegible] cell ノ如キ簡単ナ生物ガ地球上ニ[illegible]ヲ[illegible] 生ズルカ[illegible]ノ[illegible] cell ナル生物ノ生ジタ所ハ[illegible]ナイ。[illegible] C. Darwin ノ説ニ依レバ簡単ナル単細胞生物ガ今日ノ如キ高等ナル生物ニ mutation ニ依ッテ進化シテ来タノデアル。[illegible] mutation ニ依リ[illegible] evolution [illegible]。[illegible] 今日[illegible]。[illegible] 今日[illegible]ノ[illegible]デアル。[illegible]生ジタノデアル[illegible]。

[illegible] 地球ノ[illegible]ヨリ今日ニ至ルマデ[illegible] 簡単ナル単細胞生物[illegible] 生物[illegible] organization ノ進化デアル。[illegible] evolution [illegible] evolution [illegible] evolution [illegible]。而シテ differentiation ハ[illegible] system デアル。[illegible] 単細胞生物ヨリ多細胞生物ヘノ[illegible] unstable → stable ノ[illegible] natural selection ノ[illegible]ニ依ッテ[illegible]デアルト解スベキデアル。

此ノ意味ニ於テ、単細胞生物ヨリ多細胞生物ニ至ルマデ同位ノ社会ニ在ルト謂フベキ也。

~~[illegible]~~ climax ニ達シタ zone [illegible]

~~[illegible]~~ formation → association → consociation → society → colony → family ト[illegible]。而シテ其ノ centre [illegible] association デアル。[illegible] association ハ[illegible] dominant species [illegible]。[illegible] life form [illegible]。

[illegible] tree → shrub → herb → [illegible]  ──→ [illegible] Synusia [illegible] A.D. [illegible] dominant デアル[illegible]。

2. 人類ノ將來ヲ論ゼヨ。

今日人類ハ G. Taylor ニ依レバ alpine, mediterranean, austroid, negro, negrito ノ五種ガアルト云フ。而シテ人類モ今日マデ[illegible] natural selection ニ依ッテ進化シテ来タノデアル。今後人類ガ地球上ニ於テ[illegible] 安居生存[illegible]。[illegible] 従ッテ今後人類ガ地球上ニ安居[illegible]。今後文明ノ[illegible] 又人類[illegible] 大和民族ガ[illegible] 大和民族[illegible]。今後、日、満、支[illegible] 大和民族[illegible]。[illegible] 人類ノ將來ノ安居ニ[illegible] 安居[illegible]也。

80

巳 科 第 三 學 年　（氏名）…………稲田俊丈

community as a whole

全体社会（全体理論）

synusia

生活形式社会（生活形式理論）

(or synusial community)

specific synusia 特殊社会（特殊理論）

同和社会

不同和社会

synusial extension

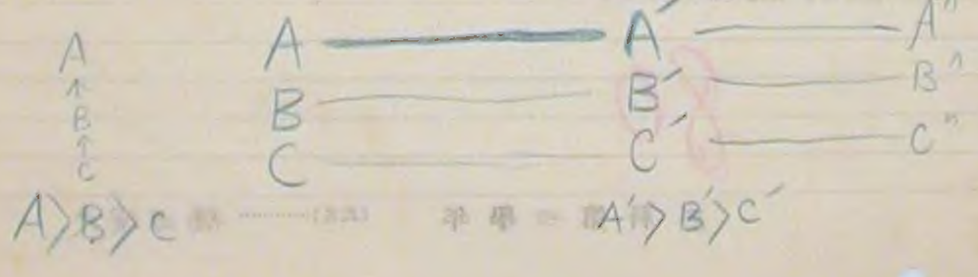
equivalent synusia

life zones

同位社会帯（第二次生活帯）

不同位社会帯（第一次生活帯）

複合社会（原注1 ナカヨモリが含マレテイル）



A>B>C ……(法則)　平等 = A'>B'>C'

なるべく全部を一枚の紙にまとめて

60 枚1

用紙はあまり使わない

1. 同位社会の構造を説明せよ

一般に生物群聚(biotic community)といふときは、ある地域を占據してゐる種々雑多な生物の總稱である。しかし、かくの如き種々雑多な生物が、ある地域内に雑然と共存し、無秩序に闘爭を繰返してゐるものでない。第一、種々雑多な生物が共存するといふことは、生物の中に種々雑多な生活形(life form)があるといふことである。從つて種々雑多な生物が、全一地域内に共存し得るといふことは、これらの生物が夫々その生活形の相違に從つて、生活空間の割り合ひをしてゐる、換言すれば、これらの生物によつて、その地域が棲み分けられてゐるといふことである。こゝに於いて、生活形に着眼することによつて、一つの生物群聚をいくつかの生活形群聚(synusia)に分析することが可能となる。生活形の相違によつて、まづ動物と植物とが分けられる。植物群聚を更に分つて、樹木層、灌木層、草本層に区別するならば、これらの各層は夫々一つの生活形群聚に他ならない。

処で一つの生活形群聚としての樹木層を更に詳しく見ると、それが一種から成立してゐるようなことは稀で、普通は数種の異つた樹木から成立してゐる。そしてこれらの樹木が異つてゐるといふことは、つまり生活様式の、或ひは生活形の相違でなければならない。すると樹木層といふ全じ生活形群聚の中でも、矢張り、この生活形の相違に應じた生活空間の割り合ひがあつていい筈である。

この場合、二種の樹木A、B間に優劣の差があるならば、優者Aの一族が一等地を占め、劣者Bの一族は二等地に追ひ出される。そしてかくの如き現象を時間的連続的に見ると、それがBからAへの遷移（succession）であると考へられる。しかし、これがお互ひに互角の力を持った二種の樹木AとA′とであるならば、恐らく両者間に於ける一等地の奪ひ合ひとなるであらう。こんな場合に起る無益な生存競争を避けて、かいる二種の樹木は全一地域内に混在せずに、一つの種類Aが南方を占據するならば、他の種類A′は北方を占據するといふ風に、地理的な棲み分けを行ってゐるものである。同様にして、二等地を占據すべきものにB、B′といふ二種類があるならば、これら同志もまた混在を避けて地理的に棲み分けてゐる。かいる場合に、相対立する種の社会AとA′、或ひはBとB′の如きを「同位社会」といふのであって、かくの如き同位社会の、生物群聚に於ける水平的な拡りを、群聚構造に於ける狭義のsynusiaと見做すことが出来る。

2. 人類の将来を論ぜよ

人類の将来に関しては、大脳の過度の發達が人体を畸形にしてゐる結果、人類は遂にかいる過適應（over-adaptation）によって滅亡するだらうといふ、直進進化論（orthogenesis）を擡き出してくる人もあるが、かいるお伽話を真面目になって考へるべく我々は最早餘りにも現実的である。地球が月のように冷却する時のことを考へたり、或ひは大

氷河の襲来を考へたりすることも、人類の将来に必しも関係のないわけではなからうが、翻って考へるならば、人類の将来とは人類たる我々にとって常に当面の問題であり、この問題の正しき解釈とは、即ち今日の生物進化学を通じて我々にまで、我々の行動理論を附與するものであらねばならぬ。

中世代に君臨した大形爬虫類の威力の前には、哺乳類の祖先も恐らく小さくなってゐるの他なかったであらう。哺乳類がこの怪物達の滅亡后に加速度的に進化したことは化石の証明する処である。人類の文化も亦、野獣の襲撃を絶えず危惧してゐなければならなかった時代には発達すべくも無かった。しかし人類は道具を用ひて遂に大形哺乳類を征服した。人類社会はかくして生物社会に於ける最高の層位を占める。而して最高の層位を占め得たもののみが、常に創造的な、飛躍的な進化を約束されて来たのである。具体的に云へば、種の分化が旺盛になるとともに、様々な生活形の現出による生活空間の拡大であり、生活資源の利用であった。

では人類の過去に果してかくの如き進化の跡が見られるであらうか。確かに支配者人類は、一應は他の生物に於いて認められると同様に、この地上を棲み分けた。そこに人種の分布があり、そして人種の分布の非重複性が、曾っては人類全体が一つの同位社会を形成せしことを物語るのである。しかし最高の層位を占め得た人類に於い

て、いつまでもかゝる同位社会の存立は許されなかつた。ある人種は他の人種よりも速かに進化した。然らば何をもつて人類進化の基準となすか。すべての人種は、人類学的に見れば、同位的として唯一つの種 Homo sapience に属するではないか。然り然りとて、こゝに我々は動物と人類との相違を見る。動物に於いては身体そのものが生活の手段であり、道具であつた。そこに身体構造の相違がその生活形の相違として照應したのである。人類に於いては、しかし乍ら、その生活形の相違は身体構造の相違でなくて、寧ろ彼等が使用する道具の相違であり、生活模式の相違でなければならぬ。かく見るならば文明人と野蠻人との間に於ける人類生活形（文化形）の相違は、分類学的に相似て異る二種類の動物間に於ける生活形の相違よりも甚しいものがあらざるか。人類の平等、人類の享楽説いては人類の將來を軽々しく口にする勿れ。かく云ふ人類とは、最早単なる宗教的憧憬の空虛なる響きを持つに過ぎない。劣等なる人種は優秀なる人種によつて支配された。抵抗するものは滅された。それが即ち進化の mechanism である。西欧諸国の植民地に認められる人種的階級の成立に、我々は人類社会進化の露骨な、生物学的一表現を看取し得るのである。

人類社会に於けるかくの如き階級の成立は、必しも之を優劣の差ある異種族間に認めるのみでなくて、同種族間に於けるこれが成立も亦従来屢々唱ぜられて来た如で

ある。もしも同種族間に於ける階級の成立は生物に於ける種の成立に相当し、階級はそれ自身が同住社会として種族乃至は民族から乖離するものであるか。之に対して敢へて進化学的解釈を与へるならば、同族社会に於ける階級の成立は、そもそも種の分離を意味せずして、寧ろ種の内容の分化的立体的発展であり、それは同族社会の強化を意味するものでなければならぬ。何とならば、かかる発展を促した契機は、現在の人類社会に於いて最有力位を占める文明人種同志が矢張り一つの同住社会を形成して相拮抗し、そして異種族間の生存競争に於いては常に種族保存が絶対的前提となるべきだからである。自由主義的階級社会が個体保存的であつても、そのために種族が解体するものであるならば、その個体も亦その種族とともに、より強力なる種族によつて支配されるの地位に陥いであらう。かく観ずるならば、明日の人類社会は尚依然として民族間の競争であり、この競争の続く限り、たとへ民族なる単位に変化はないとしても、各民族はこの競争を通じて進化し、その生活形（文化形）の変遷を通じて実際は常に新しき民族（新種）へと移り行きつゝあるものと解せられる。我々は強い民族とならねばならぬ。そしてこの競争に勝たねばならぬのである。

1. 同位社會の構造を説明せよ

一般に生物群聚(biotic community)といふときは、ある地域を占據してゐる種々雑多な生物の總稱である。しかし、かくの如き種々雑多な生物が、ある地域内に雑然と共存し、無秩序に闘爭を繰返してゐるものでない。第一、種々雑多な生物が共存するといふことは、生物の中には種々雑多な生活形(life form)があるといふことである。從つて種々雑多な生物が、全一地域内に共存し得るといふことは、これらの生物が夫々その生活形の相違に從つて、生活空間の別ち合ひをしてゐる、換言すれば、これらの生物によつて、その地域が棲み分けられてゐるといふことである。こゝに於いて、生活形に着眼することによつて、一つの生物群聚をいくつかの生活形群聚(synusia)に分析することが可能となる。生活形の相違によつて、まづ動物と植物とが分けられる、植物群聚を更に分つて、樹木層、灌木層、草木層に區別するならば、これらの各層は夫々一つの生活形群聚に他ならない。

處で一つの生活形群聚としての樹木層を更に詳しく見ると、それが一種から成立してゐるようなことは稀で、普通は數種の異つた樹木から成立してゐる。そしてこれらの樹木が異つてゐるといふことは、つまり生活樣式の、或ひは生活形の相違でなければならない。すると樹木層といふ全じ生活形群聚の中でも、矢張り、この生活形の相違に應じた生活空間の別ち合ひがあつてい、筈である。この場合、二種の樹木 A、B 間に優劣の差があるならば、優者 A の一族が一等地を占め、劣者 B の一族は二等地に追ひ出される。そしてかくの如き現象を時間的連續的に見ると、それがBからAへの遷移(succession)であると考へられる。しかし、これがお互ひに互角の力を持つた二種の樹木AとA'とであるならば、恐らく兩者間に於ける一等地の奪ひ合ひとなるであらう。こんな場合に起る無益な生存競爭を避けて、かゝる二種の樹木は全

一地域内に混在せずに，一つの種類Aが南方を占據するならば，他の種類A′は北方を占據するといふ風に，地理的な棲み分けを行つてゐるものである。同様にして，二等地を占據すべきものにもB，B′といふ二種類があるならば，これら同志もまた混在を避けて地理的に棲み分けてゐる。かゝる場合に，相対立する種の社會AとA′，或ひはBとB′の如きを「同位社會」といふのであつて，かくの如き同位社會の，生物群聚に於ける水平的な拡りを，群聚構造に於ける狭義のSynusiaと見做すことが出來る。

2．人類の將來を論ぜよ

人類の將來に関しては，大腦の過度の發達が人体を畸形にして了ふ結果，人類は遂にかゝる過適應（over-adaptation）によつて滅亡するだらうといふ，直進進化論（orthogenesis）を搭き出してくる人もあるが，かゝるお伽話を眞面目になつて考へるべく我々は最早餘りにも現實的である。地球が月のように冷却する時のことを考へたり，或ひは大氷河の襲來を考へたりすることも，人類の將來に必しも関係のないわけではなからうが，翻つて考へるならば，人類の將來とは人類たる我々にとつて常に當面の問題であり，この問題の正しき解釈とは，即ち今日の生物進化學を通じて我々にまで我々の行動理論を附與するものであらねばならぬ。

中世代に君臨した大形爬虫類の威力の前には，哺乳類の祖先も恐らく小さくなつてゐるの他なかつたであらう。哺乳類がこの怪物達の滅亡后に加速度的に進化したことは化石の証明する處である。人類の文化と雖も亦，野獣の襲撃を絶えず危惧してゐなければならなかつた時代には發達すべくも無かつた。しかし人類は道具を用ひて遂に大形哺乳類を征服した。人類社會はかくして生物社會に於ける最高の層位を占める。然して最高の層位を占め得たもののみが，常に創造的な，飛躍的な進化を約束されて來たのである。具体的に云へば，種の分化が旺盛になるとともに，様々な生活形の現出による生活空間の拡大であり，生活資源の利用であつた。

では人類の過去に果してかくの如き進化の跡が見られるであらうか。確かに支配者人類は，一應は他の生物に於いて認められると同様に，この地上を棲み分けた。そこに人類の分布があり，そして人種の分布の非重複性が，曾つては人類全体が一つの同位社會を形成せしことを物語るのである。しかし最高の層位を占め得た人類に於いて，いつまでもかゝる同位社会の存立は許されなかつた。ある人種は他の人種よりも遥かに進化した。然らば何を以つて人類進化の基準となすか。すべての人種は，人類学的に見れば，尚依然として唯一つの種 Homo sapience に属するではないか。然り然りてこゝに我々は動物と人類との相違を見る。動物に於いては身体そのものが生活の手段であり，道具であつた。そこに身体構造の相違がその生活形の相違として照應したのである。人類に於いては，しかし尽ら，その生活形の相違は身体構造の相違でなくて，寧ろ彼等が使用する道具の相違であり，生活様式の相違でなければならぬ。かく見るならば文明人と野蛮人との間に於ける人類生活形（文化形）の相違は，分類学的に相似て異る二種類の動物間に於ける生活形の相違よりも甚しいものがあらざるか。人類の平等，人類の幸福迄いては人類の將來を軽々しく口にする勿れ。かく云ふ處の人類とは，最早単なる宗教的博愛の空虚なる響きを持つに過ぎない。劣等なる人種は優秀なる人種によつて支配された。抵抗するものは滅された。それが即ち進化の mechanism である。西歐諸國の植民地に認められる人種的階級の成立に，我々は人類社會進化の露骨な，生物学的一表現を看取し得るのである。

人類社会に於けるかくの如き階級の成立は，必しも之を優劣の差ある異種族間に認めるのみでなくて，同種族間に於けるこれが

成立も亦從來屢々論ぜられて來た處である。然らば同種族間に於ける階級の成立は生物に於ける種の成立に相當し，階級はそれ自身が同位社會として種族乃至は民族から乖離するものであるか。之に對して敢へて進化學的解釈を與へるならば，同族社会に於ける階級の成立は，もともと種の分離を意味せずして，寧ろ種の内容の分化的立体的発展であり，それは同族社会の強化を意味するものでなければならぬ。何とならば，かかる発展を促した契機は，現在の人類社会に於いて最高層位を占める文明人種同志が矢張り一つの同位社会を形成して相拮抗し，そして異種族間の生存競爭に於いては常に種族保存が絶對的前提となるべきだからである。自由主義的階級社会が個体保存的であつても，そのために種族が解体するものであるならば，その個体も亦その種族とともに，より強力なる種族によつて支配されるの他ないであらう。かく觀ずるならば，明日の人類社会は尚依然として民族間の競爭であり，この競爭の續く限り，たとへ民族なる單位に変化はないとしても，各民族はこの競爭を通して進化し，その生活形（文化形）の変遷を通して実際は常により新しき民族（新種）へと移り行きつゝあるものと解せられる。我々は強い民族とならねばならぬ。そしてこの競爭に勝たねばならぬのである。

resolution

生物、　　要素主義、機械論、

気候一気象要素　Meteorology.
~~Metabo~~

相関 correlation …… 生物、　物、

気候ノ型、地形ノ型、地質ノ型　　実験ノ結果

adjustment.
|
ecosystem …… …… 環境ニオケル adaptation.
edaphic

clima ニ対スル　　実際ノ最適ハ一致シナイ!
adaptation ノ研究　climograph
1). 動物ノ、植物ノ.
2) アノ type ノアノ clima ニ適スルノデナイ. (structural adaptation)
3) optimum ノ問題 (clima ノ限定ガデナイ)
Smyntiurus viridis growth 16.7° egg-production 7°
予備.　　equilibrium　adjustment トイフモ
'wider range'
clima — physiological　not structural.
internal adjustment …… homoiothermal
ソレデモ多少限界ガアル. ソノ限界ヲ neglect スルノ ソノ分ダケ energy ヲ使ウ.
コレ evolution ノ一ツノ tendency ガ与メラレル.

生物ノ持ツ variability ト individuality トカラモ.
コレ一ツノ habitat ノ中ノ狭イ範囲デモ
一ツノ species 中ノ個体ガ違ウ

[illegible]

[illegible] — [illegible]

[illegible]

温度 [illegible]

acclimate, microclimate

temperature & activity, ecological valency

thermal constant — food energy consumption, constant temperature

rhythm —— adaptation, regeneration

[illegible]

[illegible]

humidity

evaporation (saturation deficiency)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] wind, wind system,

[illegible], [illegible], local wind, [illegible]

precipitation, [illegible]

[illegible] [illegible]

ENVOI, Epilogue

variation + natural selection

偶然？ [illegible]

élan vital

succession — climax 方向性 species orthogenesis 目, 必然

mutation [illegible] 道

ecology

Set of nature, ecosystem,

equilibrium [illegible] climax

Chapter V.

Territory

food chain

territory

territory, 定義

domain

community + society

society, 定義

Mendelism ガ organic evolution ノ説明トナルカ?

De Vries ~~の~~ Oenothera

mutation ノ否定 observation ノ少ナサハ又 occurance ノ少ナサヲ
表味スル

non-transmissibility

Weismann's germ-cell negative evidence

absence ハ fatal ojection デナイ.

direct evidence ?

struggle for existence ハ Darwin ノ考ヘタヤウニ生ハ死ニ生ハ死ニ.

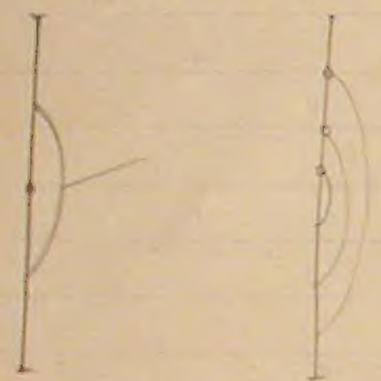
gene theory

~~Sexual~~ sexual selection

処デ高我々ノ存在トシテ残ッテキル生命トハ何カトイフ問題ガアル。ソレガ中々ノ難問題ナノデアル。常識的ニハ生物ガ生キテキルハ生命ガアルカラダトスル。

種

環境—気候



evaporation
saturation deficiency の関係.
水蒸発.

活性

活性 constant

活性

adaptation, regulation ⟶ function

(構造)ト気候, 黄色, 白色.

地球ノ attribute.
北半球ト南半球トノ比較
Seeklima (maritime climate) ~~Kontinentale~~ Landklima (continental climate)
風系
monsoon
海流
海流ノ影響.
大陸ノ東ト西
雨ノ分布
輪廻

気候帯.